



日本では、大地震は何年おきぐらいに起こっているの

大地震は10年に1回ぐらいの割合

1995年1月17日に発生した、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)による、被害は、死者6425人、行くえ不明者2人、負傷者4万人以上(1996年12月26日現在)にもなった、すさまじいものでした。

こんなに被害が大きな地震は、1948年に、死者3769人を出した、福井地震以来のものです。

しかし、日本では大地震は、それほどめずらしいものではありません。この110年の間に、1000人以上の人が亡くなった地震や津波は、11回ありました。

平均すると、10年に1回の割合で、死者が1000人をこえる、大地震が起こっていることになります。

被害の出る地震は毎年起こる

過去110年間に、人が亡くなるような地震は、70回以上ありました。また、家などに被害があった地震も入れると、160回以上もあります。

このように、日本は世界の中でも、地震が多い国なので、地震災害に対する対策も進んでいるほうです。(監修・国司 真)

